

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日

平成20年5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2890900083		
法人名	有限会社PPKちょうしんき		
事業所名	ほほえみの郷 シェア甲子園		
所在地	兵庫県西宮市甲子園浜田町4-9 (電話)0798-35-0503		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】 20年3月31日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	39234		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤9人, 非常勤5人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 2・3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(350,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (3月31日現在)

利用者人数	15 名	男性 名	女性 15 名
要介護1	7	要介護2	5
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人西宮協立脳神経外科病院、花岡歯科医院
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置する3階建てのグループホームで、1階部分を地域の小学生に開放するなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。「黒子的ケア」を理念とし、職員がサポートする形で家事を協働して行ったり、手芸・園芸など利用者の得意分野を職員が教わり一緒に作品を作るなど、利用者が主体的に暮らせるように自立支援している。食事・入浴の時間などスケジュールを決めることなく、日中はすべてのドアを開放するなど、利用者は自分のペースでのびのびと生活している。母体が医療機関であるため、定期的な訪問診療と緊急時の対応が整備されており、重度化・終末期に向けても家族と相談しながら支援が継続できるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 外部評価の受審は初めてである。職員全員一人一人が、自己評価を行い、管理者がまとめた。評価項目を全職員が理解することで、日々のケアで注意・配慮する点を再認識し、サービスの質の向上に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6) 民生委員・介護認定グループ・知見を有する者・家族が参加し、2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。会議では利用者・職員・ホームの状況、ホームの行事・活動の報告を行ったり、問題点・課題についての話し合いを行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族の面会が頻回にあるため、主に面会時に話を聞くようにしている。面会時には、職員から話かけよう心がけ、話やすい雰囲気を作るように配慮している。また、家族会・運営推進会議でも、意見聴取できるように取組んでいるが、意見を運営に反映させていく系統的な取組みには至っていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 民生委員と連携して、自治会・老人会に参加・交流を働きかけ、準備している。近隣の小学校との交流に積極的に取り組み、小学校の校長が来所し意見交換したり、学校行事への招待を受けたり、1階部分を活用して小学生が高齢者と自然にふれあう場を提供している。また、地域の清掃活動にも参加し、ボランティアも積極的に受け入れ、利用者と地域の人との交流を大切にしている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が「介護されている」と思われるのではなく「自らの力で生きている（自立）」と思える場面をひとつでも多く作る「隠れたケア」を目指し、「黒子的ケア」を理念に掲げ、パンフレットに明示し、ホーム内にも掲示している。開設当初、事業所独自で作上げたものであるが、今後「地域密着型の理念」を盛り込み、見直すことを検討している。		「理念」の見直しが検討されている。制度改正によりグループホームの基本方針として掲げられた「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が、「理念」の中に盛り込まれることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」と共に、理念を日々のケアに具体化するための心構え・言動に関する説明が理解しやすい文章で掲示されている。新入職者にはオリエンテーションで「理念」を説明している。現任職員は、申し送り時に唱和したり、ミーティングの際理念に立ち返って話し合い、周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員と連携して、自治会・老人会に参加・交流を働きかけ、準備している。近隣の小学校との交流に積極的に取り組み、小学校の校長が来所し意見交換したり、学校行事への招待を受けたり、1階部分を活用し、小学生が高齢者と自然にふれあう場を提供している。また、地域の清掃活動にも参加し、ボランティアも積極的に受け入れ、利用者と地域の人との交流を大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の受審は初めてである。職員全員一人一人が、自己評価を行い、管理者がまとめた。評価項目を全職員が理解することで、日々のケアで注意・配慮する点を再認識し、サービスの質の向上に活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・介護認定グループ・知見を有する者・家族が参加し、2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。会議では利用者・職員・ホームの状況、ホームの行事・活動の報告を行ったり、問題点・課題についての話し合いを行っている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には出席してもらっているが、行政との積極的な協働関係を構築するには至っていない。		広報誌を定期的に持参するなど事業所の状態を情報提供したり、必要に応じて課題解決の支援を要請するなど、行政との連携を継続することでサービスの質の向上につなげることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のレターでホームの状況を家族に定期的に報告し、レターの下欄で個人の状況報告を個別にできるようにもしている。緊急時・必要時には、随時電話連絡している。また、開設当初から家族会を設置し、年3回開催し報告の場としても活用している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が頻回にあるため、主に面会時に話を聞くようにしている。面会時には、職員から話かけよう心がけ、話やすい雰囲気を作るように配慮している。また、家族会・運営推進会議でも、意見聴取できるように取り組んでいるが、意見を運営に反映させていく体系的な取り組みには至っていない。		聴取した苦情・意見・要望などを報告書などにまとめ、データとして集積し、職員が周知しサービスの質の向上に活用することが望まれる。また、面会の機会が少ない家族を想定したり、家族は苦情・意見が言い難い点を考慮して、定期的にアンケートをとるなど、万遍なく意見が聴取できるよう工夫を期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動・離職が利用者を与える影響について経営者も理解しており、移動は必要最小限にするように考えている。職員が機会あるごとにフロア間を行き来し、利用者と同様顔なじみの関係を作ると共に、全職員が利用者・家族に対して誰もが対応できるようにすることで、異動のダメージの軽減を図っている。管理者は離職を防ぐことに努め、職員が相談しやすいように声かけを行い常に話しやすい雰囲気を作るように配慮している。また、月1回スタッフ会を行い話し合いを持つことで、悩み・不満を抱え込まず、共に解決していけるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修マニュアルを作成しオリエンテーションを行い、新人研修後はOJTを実施し、個別に指導している。現任研修は、スタッフミーティングの後に研修を時々行っているが、計画的な研修には至っていない。外部研修には、希望があれば参加を支援している。		全職員を対象とした、計画的・継続的な研修と共に、各職員の習熟度に応じた段階的な研修の機会の提供を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開催される西宮市グループホーム連絡会に出席し、勉強会・意見交換会に参加している。また、同法人内のグループホームとは、利用者を含めて、交流の機会を持ち、サービスの質の向上に活用している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況にもよるが、基本的には、利用申し込み後、利用者を訪問し、見学に来ていただき、ホームへの理解を深めていただけるようにしている。日中家族と来所しゆっくり過ごしたり、体験入居するなど、慣れていただいた後利用開始できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・後片付けなど利用者が中心になって行い職員がサポートしたり、編み物・園芸など利用者から職員が教わったりするなど、生活の随所で利用者と職員が協働する場面が設けられている。利用者と職員が共に作業しながら、コミュニケーションを十分にとることで喜怒哀楽を共有し、利用者の精神的な安定が図られるように配慮されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時のアセスメントで利用者・家族から生活歴・生活状況・趣味・嗜好・希望・意向などを聴取し把握に努めている。入居後も、日々のコミュニケーションの中から、新たな情報を収集したり、希望・意向の変化などを汲み取るように努力している。職員が聴取した情報を記録し、周知するための記録シートを検討中である。</p>		<p>利用開始時、入居後の希望・意向を記録し、職員全員が共有しサービスに反映できるようなシートの完成と活用を期待する。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時のアセスメントを基に、利用者・家族の意向を反映させた介護計画を作成している。個別性のある介護計画の基になる、アセスメントシートの様式を現在検討中である。</p>		<p>その人らしく暮らし続けるための個別性のある介護計画には、個別性が抽出できるアセスメントが必要である。現在検討・作成中のシートの様式を完成し、活用されることを期待する。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>スタッフ会議で状態に変化がないか確認し、3~6ヶ月の設定した期間での見直しの他、変化や家族の要望があれば臨機応変な見直しを実施している。</p>		<p>スタッフ会議での状態の変化を見逃さない取り組みを活かし、今後は、変化の兆しに予防的に対応していくための月に1回程度の介護計画の見直しがなされることを期待する。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃の会話の中から利用者の希望や要望を聞きだし、日用品以外の買い物や昔住み慣れた地域への外出を支援している。経営者である医師が訪問して健康チェックを行なってもらうことで入院の回避を行なっている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の通院同行を基本としているが、利用者・家族の希望にあわせ適切な医療を受けることができるよう支援している。月2回は、医師の訪問があり健康チェックを行なっている。入院治療の必要があれば、医療機関との情報のやりとりを行い適切な受療にむけた取り組みを行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・家族と話し合いながら可能な限りホームでの生活の継続ができるような支援を考えている。		主治医・家族との早期からの話し合いを継続し、重度化・終末期への対応を継続されることを期待する。今後、重度化・終末期への対応マニュアル・同意書の作成を行い、研修にも取り入れ職員の方針の統一を図っていく取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライベートスペースに入るときは許可を得て入るなど基本的なプライバシー確保には注意を払っている。新人研修の中では個人情報・プライバシーの確保については、徹底していくようにしている。また現任者には、その都度管理者などから指導・助言を行い徹底を図っている。</p>		<p>個人情報保護法の理解に努め、今後も全職員へ秘密保持の徹底を図るため研修の継続が望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活のリズムを把握し、一人ひとりのペースを尊重した日々の暮らしができるような柔軟な対応を心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は宅配メニューを利用して調理を行っている。希望のメニューが出た時は、適宜対応している。食事に関する一連の作業は、利用者個々の力や希望・ペースで職員が見守りや支援を行ない実施している。食事は、家庭的な雰囲気の中で、談笑しながら利用者と職員が同じ食卓で同じものを食べ、必要な場合は職員がさりげなくサポートしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めておらず、利用者個々の希望や習慣に合わせた入浴時間となっている。入浴拒否がある利用者にもタイミングを逃さないよう声かけを行い、最低週1回は入浴できるよう支援している。平均、週2～3回の入浴実施が来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習慣や希望・心身の状態を踏まえて、利用者個々の役割・楽しみごとを把握し洗濯干し・洗濯物たたみ、掃除・調理など日常生活での役割の場面を支援している。また過去の趣味や楽しみごとを把握し、プランターで野菜や花を育てたり、手芸などできるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にあわせて日々の外出を支援している。季節的な行事での外出なども取り入れ、五感刺激が得られるよう生活の中で活かしている。職員は日常の外出が利用者にとって大切である事を理解しており、外出先の提案などを行い、ホームの中だけで過ごさないように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアをめざしており、夜間以外は施錠していない。家族へも鍵をかける事の弊害について説明し理解をしてもらい、職員は目配りと職員同士の声かけで安全を確保する工夫をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>現在まで避難訓練は実施していないが、実施に向けて現在検討中である。</p>		<p>職員と利用者が一緒に、昼夜を想定した訓練が年間を通じて実施されることが望まれる。運営推進会議を活かし地域の協力体制作りも期待する。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者個々の栄養・水分については、摂取状況や摂取量を把握し、必要な栄養摂取量・水分量が確保できるように、食事・水分形態を工夫している。必要な利用者には水分量を記録するようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然な光が入り、窓の開閉で風の流れがあり、調理をする音やにおいを感じながら生活できる空間となっている。季節の花を飾り、行事や外出時の写真を家庭的雰囲気を損ねることなく掲示し生活・季節を感じながら過ごせるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、利用者の馴染みの物や家具が持ち込まれ、利用者個々の趣味・嗜好が伺える居室となり、居心地よく過ごせる空間作りができています。</p>		

は、重点項目。